



渡良瀬遊水地でコウノトリのヒナが3年連続の巣立ち

渡良瀬遊水地で今年3月に誕生したコウノトリのヒナ2羽が巣立ちました。

渡良瀬遊水地での野外繁殖によるコウノトリのヒナ誕生・巣成ちは、一昨年に東日本で初めて確認(※)されて以降、3年連続となります。

(※)昭和46年に国内野生コウノトリが絶滅し、平成17年に兵庫県立コウノトリの郷公園が野生復帰を開始して以降、東日本初。



(左から)飛び立ったセラ、ひかる、ひなた

(写真提供:テレビ小山放送(株))



巣立ちしたセラ

(写真提供:同左)

令和4年3月29日(推定)にふ化した3羽のコウノトリは、4月に親鳥による間引きで1羽の死亡が確認されました。その後、残った2羽は順調に成長し、5月11日に、兵庫県立コウノトリの郷公園をはじめとするIPPM-OWS(コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル)加盟機関の協力により、個体識別のための足環装着及び検体採取が行われました。また、愛称の一般募集により、「ひなた(メス)」と「セラ(オス)」と名付けられました。

そして、渡良瀬遊水地見守り隊等の関係者に見守られる中、6月5日午後13時01分頃に「ひなた」が、6月7日午後13時頃には「セラ」が、渡良瀬遊水地第2調節池に設置された人工巣塔から無事に巣立ちました。

誕生から巣立ちまでの経緯

- 3月29日(推定)ふ化開始
- 4月1日 少なくとも1羽のヒナが確認
- 5月11日 個体識別のための足環装着及び検体採取
- 5月28日 ヒナ愛称の命名(メスを「ひなた」、オスを「セラ」と命名)
- 6月5日 「ひなた」(メス)が巣立ち(ふ化開始から69日目)
- 6月7日 「セラ」(オス)が巣立ち(ふ化開始から71日目)

地域と多様な主体が協働・連携した取組

関東地方整備局では、2013年より「関東エコロジカル・ネットワーク推進協議会」として、多様な主体が協働・連携し、コウノトリ・トキを指標とした河川及び周辺地域における水辺環境の保全・再生方策の推進と併せて、コウノトリ・トキをシンボルとしたにぎわいのある地域振興・経済活性化方策に取り組み、広域連携モデルとしてのエコロジカル・ネットワークの形成によるコウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくりの実現を目指した活動を行っています。

3年連続でコウノトリのヒナ誕生・巣立ちは、多様な主体が協働・連携した取り組みの成果であり、コウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくりの実現に向けた大きな一歩と期待しています。

【関東地整 HP】関東エコロジカル・ネットワーク ～コウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくりを目指して～
https://www.ktr.mlit.go.jp/river/chiiki/river_chiiki00000035.html